

九国プレ 2015

# 解答・解説

九州国際大学附属中学校

— 国 語 —

《解答》 (配点) 一 40点 二 40点 三 20点

一 (40点)

- 問一 ㉔ 交信 ㉕ 用い ㉖ 一理 ㉗ 積極 ㉘ 複数 (各2点)
- 問二 A エ B イ C ウ (各2点)
- 問三 エ (2点)
- 問四 灯台下暗し (どうだいもとくらし) (2点)
- 問五 行動や思考 (3点)
- 問六 1 旅 2 あたりまえ 3 疑問 4 やり方 5 やってみよう (各1点)
- 問七 (例) ふだんの環境では、強い習慣性に支配され、生活上、疑問に感じるこ  
となどないから。 (4点)
- 問八 ア ○ イ × ウ × エ × (各2点)

二 (40点)

- 問一 ㉔ ふただ (び) ㉕ ほしろう ㉖ かげん ㉗ あば (れる) ㉘ から (各2点)
- 問二 1 大きく 2 パワフル 3 釣り上げる (各1点)
- 問三 エ (4点)
- 問四 「どうして」捕れない。 (完答 4点)
- 問五 絶体絶命 (4点)
- 問六 1 二 2 気合 3 (例) ほこらしく (各1点)
- 問七 もはやその命までも手中に収められた状況なのに、あくまでも反抗しようとしてくるから。 (4点)
- 問八 1 勝った 2 目をつぶり 3 悔し 4 あまさ (各1点)
- 問九 (例) 今回のマツカチンとの戦いで、気合の大切さを思い知り、どんな状況に置かれても気合の入ったプレーをし続けてきたから。 (4点)

三 (20点)

- 問一 ① イ ② ア ③ ウ ④ エ (各2点)
- 問二 ① 三年 ② 団子 (だんご) ③ すっぱん (各2点)
- 問三 ① 心 ② 等 ③ 直 (各2点)

## 《解説》

### ㊦ (出典『ピーター流わくわく旅行術』ピーター・フランクフル)

問一 漢字は、一画一画ていねいに書きましょう。「一理」は、それなりの理由という意味です。

問二 空らん前後の文の関係をよく抑えて解きましょう。A前後の文は、「オフライン状態」と「オンライン状態」とが対比されているところから、「一方」が入ります。C前後の文は、「ふだんの環境く難しい」(理由)と「旅に出るのです」(結果)の関係にあるから、「だから」が入ります。

問三 熟語には、否定字を含むものがあります。選択肢にあるもの(不、無、未、非、否)が主なものですから、その熟語に出会ったときに意識しておきましょう。

問五 「オフライン」と「オンライン」の説明は、第一段落にあります。また、設問の「自分の何を」という言葉に注目すれば、「自分の行動や思考を変えていきます」にたどりつけると思います。

問六 この指示語は、空らんBから直前の内容まで広く指しているので、難しい問題です。しかし、誘導がしてあるので、空らん直後の言葉とのつながりを考えて解くとよいでしょう。

問七 文章の流れからすると「灯台下暗し」の状況なのですが、では、その状況とは具体的にはどういうもののでしょうか？ キーワードでとらえると「オフライン状態」なのですが、「ふだんの環境」ではどうして「オフライン状態」なのかを説明している、第三段落に注目してください。すると、「習慣性」にとらわれている「毎日の生活」という表現にたどりつけると思います。

### ㊦ (出典『気合入門』朱川 湊人)

問三 少年は、何度かの「マツカチン」との戦いで「コツを体得し」ています。それは、傍線部から三行前から具体的に描かれています。そのコツどおりに「気をつけて、気をつけて」、「機械」のように釣り上げようとしている場面なので、この「機械」とは、精密機械のようになっている少年の様子が想像できます。

問四 物語の場合、よく過去を回想する場面があります。過去の兄貴たちとの野球のシーンで、この文章のキーワードでもある「気合」を教わる場面が相当します。「兄貴の言っていた言葉がふつと耳元でよみがえる。」とあるので、その直前の兄貴の言葉から回想に入っていることが分かります。

問五 「マツカチン」が「完全に逃げ場をなくし」ている状況、つまり、生きる道も残されていないような、追いつめられた状況を示す「絶体絶命」が正しい四字熟語となります。ただし、本文中に「絶対」という同音異義語がいくつも出てきますので、まちがえないようにしましょう。

問六 「少年」と「マツカチン」との戦いは、本文七行目にある通り二回目となります。いわば、三度目の正直です。そしてその結果、みごとに勝利を収めます。直後に「近くに誰もいないのが、本当に悔しかった。」とあるように、自分が「マツカチン」を釣り上げたということを、誰かに示し自慢したい気持ちが表れています。そういった気持ちを「誇らしい」とか「自慢したい」という言葉で解答してください。

問七 「少年」はみごと「マツカチン」との戦いに勝ち、勝利に酔いしれています。それが、傍線部直後の「お前の命は、もう自分の手の中」「どんなにハサミをふりたてようが、どうにもならないのさ。」という表現に表れています。そんな思いでいる「少年」に対して、悪あがきしている「マツカチン」を「ナマイキ」と「少年」は見えています。

問八 いよいよ物語のクライマックスの場面です。「絶体絶命」の状況に追い込まれたと思っていた「マツカチン」が、「かがんだ少年の目の高さにまではねあがり」ます。そこで「少年」は、「反射的に目をつぶ」つてしまい、「気合」で負けてしまっていることを暗示しています。結果、「マツカチン」を含む釣り上げたすべてのザリガニを逃がしてしまい、自分の「あまさ」を痛感しています。「にごった水辺でマツカチンが再びはね」という表現は、「マツカチン」が「ざまあ見ろ！」と「少年」をあざ笑っているかのようです。

そんな「マツカチン」との戦いにおいて「少年」は、どんなに追い込まれた状況でさえ「気合一つで切りひらいていける」ことを学び、翌日から、「兄貴」とキャッチボールの練習を始めます。そして、「少年」は「気迫のプレーで人気を集める」プロ野球の選手に「みごとに成長します。「マツカチン」との戦いで学んだ「気合」を生涯持ち続けた「少年」もまた、すばらしいと思います。

### 三 (語句の問題)

問一 音読みとは、中国で読まれていた読み方が伝わって出来たものです。例えば「手」を「シュ」と読む読み方です。一般的には読んでも意味のわからないものとされていますが、「台」のように音読みしかないものもあるので注意が必要です。訓読みは、漢字に日本語をあてて読みます。だから、意味が分かります。例えば「手」を「て」と読んだり、「春」を「はる」と読んだりする読み方です。どちらも漢字辞典を引くと探すことができますので、いろんな漢字の音訓を調べてみてください。

問二 ことわざの問題です。ことわざは、観察と経験そして知識の共有によって、長い時間をかけて形成されたものです。その多くは簡潔で覚えやすく、言い得て妙であり、ある一面の真実を鋭く言い当てています。そのため、詳細な説明の代わりとして、あるいは、説明や主張に説得力を持たせる効果的手段として用いられることが多くあります。出会うたびに覚えておきたい言葉です。

問三 類義語・対義語の問題です。一つの熟語には、よく似た意味を表す熟語や反対の意味を表す熟語があります。セットで覚えておくと、語彙力・表現力も格段に高まると思います。

# — 算 数 —

1 (小問集合) 5点×7 = 35点

(1) 2 (2)  $1\frac{1}{18}$  (または  $\frac{19}{18}$ ) (3) 12 (4) 79 (5) 7 (6) 320 (7) 31.05

整数、小数、分数の計算は何度も練習しましょう。また、速さや角度、面積を求めるなど基本的な問題です。問題をよく読んで解きましょう。

2 (文章題) 5点×3 = 15点

(1) 6 とおり

上の部分を赤で塗るとき、下は青、緑の2とおおりあります。

上の部分を青、緑にしたときも同じように考えて2とおおりずつあるので、合計で6とおおり。

(2) 125 g

赤飯6人分ではあずきが75 g 必要ですから、1人分は  $75 \div 6 = 12.5$  g。

よって、10人分は  $12.5 \times 10 = 125$  g となります。

(3) サンドイッチ

1個あたりの値段と割合をかけて、一番大きくなる品物が答えとなります。

3 (文章題) 4点×2 = 8点

(1) 8.75 cm ずつ (または  $\frac{35}{4}$  cm ずつ)

切り取られた4本のひもは全部あわせて、 $36 - 1 = 35$  cm。4本はすべて同じ長さだから、1本の長さは4で割れば求められます。

(2) 7.2 cm, 9 cm

まず、このひもが9 cm で4等分できることに気がつきましょう。

3等分すると、 $36 \div 3 = 12$  cm。10 cm より大きくなるので×。

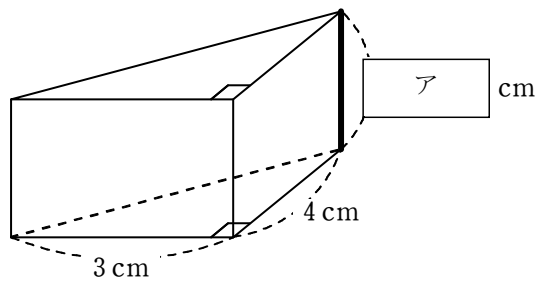
5等分すると、 $36 \div 5 = 7.2$  cm。7 cm 以上 10 cm 以下なので○。

6等分すると、 $36 \div 6 = 6$  cm。7 cm より小さくなるので×。

4 (空間図形) 5点×3 = 15点

(1) 三角柱

展開図を組み立てると、右の図のようになります。



(2) 6個

(3) 2

底面積は  $3 \times 4 \div 2 = 6 \text{ cm}^2$  なので、

$6 \times \boxed{\text{ア}} = 12$ 。よって、 $\boxed{\text{ア}}$  には 2 が入ります。

5 (グラフ) 5点×3 = 15点

(1) 毎分 12 L

グラフの変化から、板の高さがわかります。

水面の高さが 40 cm になるまでに、水は、

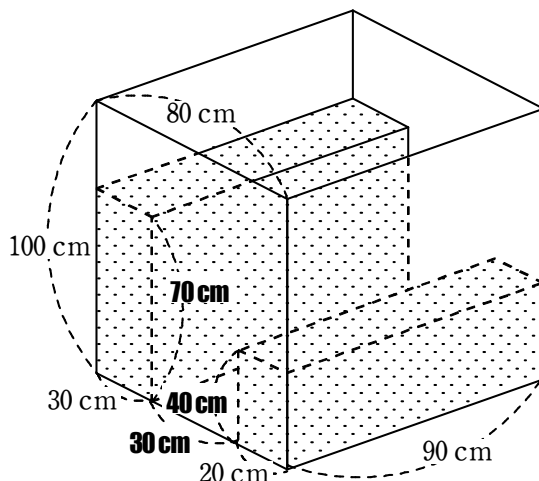
$30 \times 90 \times 40 \div 1000 = 108$  L 入ります。

(1L = 1000 cm<sup>3</sup> に注意)

それまでにグラフから 9 分かかっていると

わかるので、 $108 \div 9 = 12$ 。毎分 12 L とな

ります。



(2) 11 分 15 秒

水面の高さが 40 cm から、70 cm になるまでに、水は、

$50 \times 90 \times 30 \div 1000 = 135$  L 入ります。

(1) から、水は毎分 12 L 入っていますから、135 L たまるまでに

かかる時間は

$$135 \div 12 = \frac{135}{12} = 11\frac{1}{4} \text{ 分, つまり 11 分 15 秒となります。}$$

(3) 38 分 15 秒後

水面の高さが 70 cm から、100 cm になるまでに、水は、

$80 \times 90 \times 30 \div 1000 = 216$  L 入るので。かかる時間は  $216 \div 12 = 18$  分。

グラフをみると、水を入れ始めてから 9 分後に水面の高さが 40 cm、

(2) からさらに 11 分 15 秒後には 70 cm、さらに 18 分後に高さが 100 cm

となります。

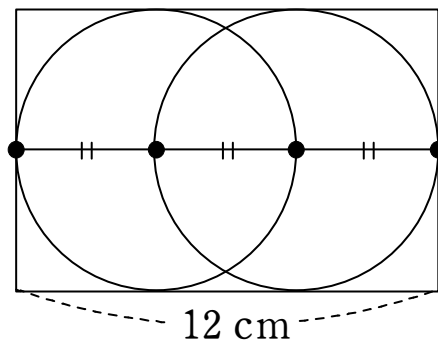
よって、この容器がいっぱいになるのは 9 分 + 11 分 15 秒 + 18 分、

つまり 38 分 15 秒後となります。

6 (平面図形) 4点×3 = 12点

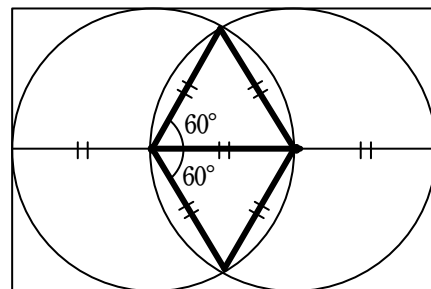
(1) 4 cm

2つの円の半径は同じですから、図から円の半径は  
 $12 \div 3 = 4 \text{ cm}$ 。




(2) 120 度

右図の太線はすべて円の半径ですから、正三角形が  
 2つできます。正三角形の1つの角は60度なので、  
 ㊦の角は  $60 + 60 = 120$  度となります。



(3)  $67 \text{ cm}^2$

の部分を、同じ形の2つの図形にわけます。

これらは半径4 cmの円の一部(半径4 cm, 中心  
 角  $240^\circ$  のおうぎ形)なので, 求める面積は,

$$\left(4 \times 4 \times 3.14 \times \frac{240}{360}\right) \times 2 = 66.9866\cdots$$

小数第1位を四捨五入して,  $67 \text{ cm}^2$  となります。

